

★栽培から成分向上手法を多数収載。植物が秘める‘機能性’が事業発展への活路を見出す!

機能性植物が秘めるビジネスチャンス

～各社事例から学ぶ成分向上手法／事業活用例～

発刊：2016年3月 定価：68,200円(税込(消費税10%))：B5判ソフトカバー 332頁

本書のポイント

- ◆国内外市場の植物ビジネス全体像とトレンドを徹底解説
- ◆機能性成分向上技術及び事業化を踏まえた栽培取り組み
- ◆各企業&大学の事業・研究事例から見る、機能性植物ビジネスの現状と可能性
- ◆活躍のフィールドは？将来展望及び事業化の可能性を探る

詳細は裏面及びHPをご覧ください。
<http://www.johokiko.co.jp/publishing/BC160302.php>

<機能性植物を取り巻く現状>

- 何を作るべきなのか。有望な栽培品目とは？
 - ・国産野菜の動向から見てくる機能性植物市場
 - ・ビジネス成功の鍵はグローバル視点
- 企業が踏まえておきたい話題
 - ・機能性表示トラブル／特許問題／事業化の課題
- 諸外国における市場動向、取引の実態
 - ・東南アジアをはじめとした新興国でのニーズ
 - ・中国市場で注目の植物工場産野菜

<機能性植物ビジネスの現状把握>

- 各企業、大学の取り組み事例から見るビジネスチャンス
 - ・医薬品への活用(医薬品、抗菌材、香料への利用開発)
 - ・薬味酒への活用(各生薬の特徴と利用方法／販路開拓)
 - ・化粧品への活用(コスメ開発／植物の機能性と特徴)
 - ・甘味料への活用(羅漢果の特性／用途拡大への課題と展望)
 - ・異業種からの植物工場事業参入(事業化までの経緯／参入時の注意点／栽培システム開発／販路開拓／六次産業化／低硝酸根レタス等の栽培)
 - ・高機能農産物の加工事業(一次加工技術／設備概要とコスト)
 - ・フィルム農法を用いた高機能化植物生産(高糖度トマト／生産工程／事業性)
- 活躍のフィールドは？将来展望及び事業化検討
 - ・新たな野菜品質評価指標構築。品質の見える化による革新的生産技術体系の提案
 - ・青果物の機能性表示食品の登場
 - ・食品関連業界必見の「ハラール」市場
 - ・西洋ハーブとサプリメントに使用される植物

<成分向上技術・栽培技術の最新例>

- 各植物中に含まれる成分の向上技術と研究内容(アスコルビン酸／グリチルリチン酸／ポリフェノール／ビタミンB12／ミネラル含有量制御／高ケルセチン化／低カリウム化／GABA増量／植物生育における環境応答)
- 各企業・大学の事業家を踏まえた栽培取り組み(オタネニンジン／高ケルセチンたまねぎ／低カリウム野菜／高リコペントマト)

【執筆者一覧(執筆順・敬称略)】

- 小峰 正史(秋田県立大学)●中西 準治(内閣官房・地域活性化統合事務局)●有井 雅幸(東京デリカフーズ(株))●足立 雅洋(アグリウェーブ(株))
- 坂崎 文俊(大阪大谷大学)●相原 礼路(相原特許商標事務所)●伊藤 徳家(奥羽大学)●澤井 祐典(農業・食品産業技術総合研究機構)
- 芝野 真喜雄(大阪薬科大学)●園師 一文(宮崎大学)●渡邊 文雄(鳥取大学)●田野島 鐵也((株)ヴェルデ)●岡本 大作(南植物育種研究所)
- 小川 敦史(秋田県立大学)●牧野 義雄(東京大学)●山家 一哲(静岡県農林技術研究所)●垣淵 和正((株)四国総合研究所)
- 園山 芳充((株)アグリライト研究所)●五十部 誠一郎(日本大学)●金井 藤雄(生薬コンサルティング)●斎藤 和興((株)セネコム)
- 浅尾 俊樹(島根大学)●北山 隆(近畿大学)●名田 和義(三重大学)●池上 文雄(千葉大学環境健康フィールド化学センター)
- 富樫 智(千葉大学環境健康フィールド化学センター)●西村 文秀(丸善製薬(株))●多田 明弘(ポーラ化成(株))●村田 雄司(サラヤ(株))
- 岡崎 聖一((株)キーストーンテクノロジー)●宮下 善雄((株)大泉野菜工房)●佐藤 喬(わくわくあぶくま夢ファーム)●森 有一(メビオール(株))
- 佐藤 仰喜((株)フィードイノベーション)●安川 憲(日本大学)

★書籍申込書

FAX：03-5740-8766、または、→<http://www.johokiko.co.jp>にて

※FAX番号はくれぐれお間違えの無い様お願い致します。

(書籍申し込み要領)

- 右記記入の上、FAXでお申込を承ります。
- お申込書を確認次第、書籍、請求書および振込要領をお送りいたします。
- 未発刊の書籍をお申込の場合、申込書を確認次第、受領書をお送りいたします。発刊時に弊社より書籍、請求書および振込要領をご送付いたします(送料は弊社負担)
- お支払いは請求日翌月末日までに、銀行振込にてお願いいたします。原則として領収証の発行はいたしません。
- 振り込み手数料はご負担ください。

★ <http://www.johokiko.co.jp/>の申込みフォームからも承ります!

書籍名HP 【BC160302】機能性植物ビジネスが秘めるビジネスチャンス 書籍		冊数	___冊	※記入の無い場合は1冊
会社名				
所属部課・役職等				
申込者氏名		TEL	FAX	
E-MAIL		上司役職・氏名		
住所〒				
備考				
ご案内をご希望の場合は今後の案内方法にレ印を記入下さい(複数回答可) <input type="checkbox"/> e-mail <input type="checkbox"/> FAX <input type="checkbox"/> 郵送				

ご連絡頂いた、個人情報は弊社商品の受付・運用・商品発送・アフターサービスのため利用致します。今後のご案内希望の方には、その目的でも使用致します。今後のサービス向上のため「個人情報の取扱いに関する契約」を締結した外部委託先へ、個人情報を委託する場合があります。個人情報に関するお問合せ先policy@johokiko.co.jp

構成及び内容

<p><第1部 機能性植物の概要及び取り巻く現状> 第1章 機能性植物とは 第1節 機能性植物総説 第2節 機能性薬用植物の概要 第3節 機能性野菜の概要</p> <p>第2章 何故いま機能性植物なのか 第1節 薬用植物を始める前に～踏まえておくべきビジネス事情 1.薬用植物(生薬)の流通 2.薬用植物の何をどこで栽培するか 2.1 薬用植物の販売 2.2 生薬問屋と生薬メーカー 3.薬用植物栽培の実際 3.1 薬用植物の収穫 4.薬用植物の加工調整 5.薬用植物の品質評価 第2節 薬用植物の栽培状況 第3節 国産野菜の生産状況とマーケット・ニーズ動向 1.野菜の生産とマーケット概況 2.主な野菜品目別の生産状況 3.野菜に対する消費者/実需者のニーズ 第4節 諸外国におけるの植物工場の市場動向、および米国にて注目される高機能・高付加価値植物“医療用カンナビス”の可能性 1.植物工場の位置付け、および需要と供給 2. 米国においての高機能・高付加価値植物“医療用カンナビス”の現状 2.1 医療用カンナビス事情 2.2 医療用カンナビスの米国各州の法規制 2.3 医療用カンナビスビジネスの現状 第5節 機能性表示制度改正 1.医薬品医療機器等法における薬効表示の規定 2.機能性表示食品と既存の健康食品制度 2.1 機能性表示食品と栄養機能食品 2.2 機能性表示食品と特定保健用食品 2.3 機能性表示食品と特別用途食品 3.機能性表示食品の手続きの流れ 4.機能性表示食品の申請状況 5.制度改正に伴う食品市場拡大予測</p>	<p>3.植物工場施設による栽培 第5節 土壌によるミネラル含有量制御 1.弊社における「機能性野菜」栽培 2.「低硝酸葉物野菜」 3.スプラウト野菜栽培 4.「ミネラル成分」のコントロール 5.「ミネラル成分」の増強に向けて 第6節 タマネギの高ケルセチン化学法 1.タマネギのケルセチン 2.遺伝資源の探索 3.タマネギに含まれるケルセチンの分析方法 4.簡易分析法の開発 5.交配育種によりタマネギのケルセチン含量を高める方法 6.貯蔵によるケルセチンの安定性の確認 7.加工、調理によるケルセチンの安定性の確認 第7節 葉菜及び果菜での低カリウム含有量化 1.研究背景 2.葉菜での低カリウム含有量化 3.果菜での低カリウム含有量化 4.低カリウム含有量野菜の実用化における現状と課題 5.低カリウム含有量野菜摂取による人体やQOLへの影響 第8節 包装貯蔵によるトマト果実中GABAの増強 1.青果物内のGABA含量 2.トマトでのGABA増強とメカニズム 第9節 植物生育における環境応答 1.概要 2.光環境に対する植物の応答 3.温度環境に対する植物の応答 4.水環境に対する植物の応答 第5章 一般農作物への最新技術アプローチ 第1節 青色LED光照射による収穫後ウンシュウミカンの腐敗抑制 1.研究背景 2.青色LED光による果実腐敗抑制試験条件 3.試験結果 4.課題と展望 第2節 鮮度保持技術を活用したカット野菜事業の展開 1.近赤外光照射による鮮度保持技術について 2.iRFセンサーを活用した事業展開 第3節 光害による生育への影響 1.農作物への光の害という問題 2.農作物への光害メカニズムと開発の阻止技術 3.植物工場への光害対策の考え方 第4節 機能性農産物(植物)加工技術～加工による高付加価値～ 1.農産物中の機能性成分に注目した加工技術(考え方) 2.栽培ステージの機能性成分の変動の利用(摘果からの加工) 3.機能性成分の消長に関わる加工操作 4.加熱処理等での機能性活性の向上 5.未利用部位の機能性成分の利用</p>	<p>2.新たな植物高含有天然物の利用 2.1 植物高含有天然物の選択 2.2 ハナショウガとゼレンボン 2.3 ゼレンボンの反応開発 3.用途開発への展開 4.実用化への課題と今後の展望 第2節 薬味酒「金山来福酒」の開発 1.医薬農連携の研究から薬味酒の開発 2.金山来福酒の配合生薬と処方 2.1 処方生薬1. コウバクニクジュヨウ(肉?蓉) 2.2 処方生薬2. タイソウ(大棗) 2.3 処方生薬3. チンピ(陳皮) 2.4 処方生薬4. ハチミツ(蜂蜜) 3. 濱田酒造と金山蔵との出会いから販売へ 第3節 化粧品への活用 第1項 有機JAS認証植物の化粧品への応用 1.ナチュラル・オーガニックコスメについて 2.オーガニックシリーズの開発 3.オーガニックシリーズの機能性について 第2項 抗糖化有用植物の開発及び化粧品への活用 1.抗糖化へのアプローチ 2.YACエキスの開発事例 3.レンゲソウエキスの開発事例 4.考察 第4節 甘味料への活用 1.研究背景 2.羅漢果の歴史および栽培 3.羅漢果の甘味成分と甘味特性 4.羅漢果抽出物の製造と規格基準 5.羅漢果の薬理作用と代謝 6.今後の展望 第5節 (株)キーストーンテクノロジーの六次産業化 1.フードマイレージと都市型植物工場の親和性 2.持続可能な事業としての植物工場に求められる視座 3.独自開発LEDを用いた実用的栽培システムの開発 4.植物工場用栽培ユニット「AGRI Oh(アグリ王)」 5.導入事例 6.高収益植物工場事業に求められる生産 7.マーケティング・ブランディング戦略立案の勘所 第6節 植物工場事業参入及び低硝酸根野菜栽培 1.植物工場参入のきっかけと設備導入までの経緯 2.植物工場設備概要 3.大泉野菜工場の研究成果 4.これからの取り組み 第7節 機能性野菜の加工事業 1.取り組みへの背景 2.加工可能な農産物 3.乾燥粉末加工概略設備費 4.加工形態とその理由 5.加工技術 6.加工法課題と展望 7.参入検討者へのアドバイス 第8節 高機能化野菜の生産技術の開発 1.メビオール(株)の戦略 2.フィルム農法(アメイック)の原理 3.フィルム農法システム 4.フィルム農法による高糖度トマト生産の現状 5.フィルム農法の今後の展開</p>
<p><第2部 機能性成分向上技術・栽培技術の最新事例> 第4章 機能性成分向上手法 第1節 スプラウトのビタミンC含量向上 1.ビタミンCの多いスプラウト素材 2.スプラウトのビタミンC含量向上手法 3.スプラウトのビタミンC含量に及ぼす光と温度の影響 第2節 カンゾウ苗のグリチルリチン酸含量変化 1.生薬・甘草の基原植物について 2.グリチルリチン酸の薬理作用と副作用 3.筒栽培法 4.グリチルリチン酸含量の変化 5.栽培年と収量 6.カンゾウの開花と結実 7.グラブリジンについて 8.今後の展開と成長性 第3節 塩ストレスによるトマト内ポリフェノール向上 1.トマトのポリフェノール 2.トマトとストレス付栽培 3.塩ストレスによるトマトのポリフェノール向上手法 4.今後の課題 第4節 植物へのビタミンB12強化法 1.ビタミンB12の特徴 2.野菜など植物へのビタミンB12の強化法 2.1 有機肥料 2.2 水耕栽培</p>	<p>第6章 品目別の栽培方法 第1節 オタネニンジンの閉鎖型人工光栽培 1.日本におけるオタネニンジンの栽培現状 2.露地栽培 3.オタネニンジンの閉鎖型人工光栽培 第2節 高ケルセチンタマネギ 1.高ケルセチンタマネギ種子の安定供給 2.栽培におけるケルセチン含量の安定化 3.高ケルセチンタマネギを活用した地域ブランド化 4.北海道葉山町における高ケルセチンタマネギ「さらさらレッド」 5.高ケルセチンタマネギを原料とする食品の開発 6.知的財産の保護 第3節 低カリウムイチゴ生産の試み 1.低カリウムイチゴに適した品種選定 2.培養液中硝酸カリウム濃度調節による低カリウムイチゴの人工光下での生産 3.開花開始後の硝酸カルシウム添加による低カリウムイチゴ生産の試み 第4節 トマトの高リコペン高糖度栽培の取り組み 1.水ストレス・浸透圧ストレスによるトマトの高糖度栽培について 2.トマトの高リコペン化 3.カリウム高濃度施与による高リコペン高糖度トマト栽培技術の開発 4.カリウム高濃度施与による高リコペン高糖度トマト栽培技術の実用化のために</p>	<p>第8章 <活躍のフィールドは?> 将来展望と事業化の検討 第1節 国産野菜の需給・消費拡大を目指した新たなバリューチェーンの構築 1.新たな機能性表示食品制度について 2.主な野菜品目で期待される機能性 3.新たな価値創造を目指した野菜品質評価指標 4.攻めの農林水産業への挑戦 5.青果物に機能性表示食品が初めて登場 第2節 ハラル認証 1.ハラル認証概要 2.何故今注目されているのか(ハラル市場の成長性) 3.弊社認証取得事例(あきたこまち) 4.イスラム諸国への企業進出可能性 第3節 国内での機能性植物ビジネスの形～西洋ハーブの医薬品・サプリメント利用～ 1.赤ブドウの葉の抽出エキス 2.チエストベリー(プレフェミン) 3.エキナセア 4.セント・ジョーンズ・ワート 5.ノギリヤシ 6.イチヨウ葉 7.ブラックホシユ 8.紅麹菌 9.桑の葉・白樺蚕 10.大豆 11.亜麻仁油 12.エゴマ油</p>
<p><第3部 機能性植物のビジネス現状把握> 第7章 各企業の取り組み事例から応用展開 第1節 医薬品への活用 第1項 植物高含有天然物を用いた医薬品・機能性分子開発の取り組み 1.利用されている植物素材の例</p>		